

1. 御池台校区連合自治会のケース



- ・ 総論として、同意する人が多いのではないか
- ・ 自治会があれば実現するものではないが、あれば役立つし、なければ実現が遠のくのではないか

2. 関守町2丁目（自治会を支援する会・西須磨）で検討中

「目指すまち」（象徴的な姿）		
(A)	(B)	(C)
認知症の人が、安心して歩き回れるまち	困ったときに助けを求められるまち	大地震が発生した時は、住民が自ずと助け合うまち
認知症の方々に対しても全く同様のとりくみをしています。また、 徘徊を「外出」と称して、その方のその時の想いを大切におおらかに見守ってきました。 これらのことが実現できたのは「地域に根ざす運営」によって 地域の方々のご理解とご協力 を得られたからこそだと感謝しています。時代によって福祉施策は変化しますが、喜楽苑のノーマライゼーション（＝どんなに重い障害があっても「地域の中でひとりの生活者としての暮らしを築く」）へのとりくみは、決して変えてはいけなと肝に銘じています。	例：ヤングケアラーを独りにさせない「ヤングケアラー」とは年齢や成長の度合いに見合わない重い責任や負担を負って、本来、大人が担うような家族の介護や世話をすることで自らの育ちや教育に影響を及ぼしている18歳未満の子どもたちのことを言います。現状では支援施策も相談窓口もなく、 学業や自分の健康は後回しで将来の進路選択をあきらめざるを得ない 事例が調査により明らかになっています。	6,400人以上の死者・行方不明者を出した平成7年1月の阪神・淡路大震災では、地震によって倒壊した建物から救出され生き延びることができた人の約8割が、家族や近所の住民等によって救出されており、 消防、警察及び自衛隊によって救出された者は約2割 であるという調査結果がある。また、別の調査では、自力で脱出したり、家族、友人、隣人等によって救出された割合が約9割を超えており、 救助隊によって救助されたのは1.7% であるという調査結果もある。
社会福祉法人 きらくえん	市民福祉セミナー「ヤングケアラー『家族のケアを担う子どもたち』～現状と当事者たちの語り～	平成26年版 防災白書 特集 第2章 1 大規模広域災害時の自助・共助の例
http://www.kirakuen.or.jp/jigyo/kiraku/	https://www.shiminfukushidaigaku.jp/files/t_t_raining/document1/188/20210118205436_document1.pdf	http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h26/honbun/0b_2s_01_00.html#:~:text=6%2C400%E4%BA%BA%E4%BB%A5%E4%B8%8A%E3%81%AE%E6%AD%BB%E8%80%85,%E3%81%8C%E3%81%82%E3%82%8B%EF%BC%88%E5%9B%B3%E8%A1%A81%EF%BC%89%E3%80%82
<p>地域の宝がたくさん育っていると、「目指すまち」に近づける。 貢献精神と活動参加を兼ね備えた人が地域の宝。 自治会は地域の宝に支えられ、同時に、自治会が地域の宝を育てる</p>		

3. 竹の台自治連合会のケース

「自治会は必要」が64%、「自治会不要」が7%という結果になり、必要が不要を大きく上回りました。
必要とする理由として、2つのことを多くの方が挙げられていました。

- ① 最低限の住環境を守る（安全安心や美化）ため必要
 - ② 行政に住民の要望を伝えるため。個人ではできないので、組織が必要（行政まかせでは不安）
- 一方、住民が高齢化していく中、役員が務まるか不安に思っている方が多くおられました。

「竹の台総合新聞」 2019年1月 第69号

4. 自治会がなくなると困りそうなこと

(1) 直ぐに困りそうなこと … 最低限、これらと、自治会としての義務（会計処理、総会開催、等々）をすればよいだろう

- ① 自治会街灯の電気代を払えなくなる。電球が切れても交換されない
- ② 防犯カメラの電気代が払えなくなる。メンテナンスできない。必要になっても、映像を見ることができない
- ③ 資源回収の助成金を受けられない。何か問題が起こっても対処できない
- ④ ごみ収集において、環境事業所との窓口がなくなる。何か問題が起こっても、対処できない
- ⑤ 行政などからの情報を受けることができなくなる
- ⑥ まちとして行政に要望することができなくなる（個人としての要望では、受け付けてくれないこともある）

(2) 直ぐには困らないが、ないと将来困りそうなこと … 上記(1)を実施することにより、自ずと少しは、改善されるだろう

- ① 先に掲げた「目指すまち」を、目指せなくなる（自らしないと、誰もやってくれない）
- ② 人と人とのつながりが薄れて、助け合いが希薄になる。地域の力が弱まる
- ③ 暮らしにくいまちになる。住民が去っていく。新しい人が来なくなる。寂れたまちになり、それによりますます寂れていく
- ④ 大震災が起こった時、皆が孤立無援になる。行政からの支援も受けにくくなる

5. 結論：自治会は存続させる必要があり、そのための負担は分かち合わなければならない

複数の人で負担し、少数の人に負担を集中させないようにする

長期にわたって同じ人に負担をかけないようにする。また、任期ごとによって変わっていくと「地域の宝」が増えていく

6. 最初はよく分からなくても自治会役員になれるように、なっても困らないように、自治会を支援する仕組みがあることが好ましい

以上